

東部体育館

登場人物

みどり

美奈子

阪上さん

石井さん

康之

みどり、タオルで体や髪を拭いている。

みどり「すごかったわねー！集中豪雨。ちょっと車出てそこのところ歩いただけでこれだもん」

美奈子「うん。みんな、遅くなるね」

みどり、入り口の扉から外を覗く。

みどり「ほら、あれだけよ。ほんの10メートルもないわよ、ほら。それでこれだもん。ああ、
冷えちゃった、寒い寒い。」

美奈子、ネットを運んでくる。

みどり「いかなーくちゃー、きみにーあいにいかなくちゃー、きみの一町にいかなくちゃー。

ミナちゃん、お母さん髪の毛おかしい？大丈夫？」

美奈子、聞こえない。あるいは聞いていない。

みどり、別に気にしていない。

みどり「真凜は？」

美奈子「秀樹くんママのところでは餃子パーティー。だから8時ごろに出るよ、今日は。」

美奈子、バレーボールのネットを一人で張ろうとしている。

みどり「あんた、一回戻って自転車で来たんでしょ？バッテリー濡れない？大丈夫？自転車で来たんでしょ？」

美奈子「うん。お母さん、そこのパイプ椅子、とって。パイプ椅子。ネットが緩い」

みどりがパイプ椅子を持って美奈子のところに行く。

みどり「なあに？なんか引っかかっているの？」

美奈子「うん。」

みどり「玉？回らないの？」

美奈子「うん」

みどり「がちゃがちゃ、ってやってみなさいよ。」

美奈子「やってる」

みどり「がちゃがちゃ、って。ほら、もっと。ワイヤーが引っかかっているでしょ。その中の
玉に。まわらないの？油が足りないの？」

美奈子「玉じゃなくて、車輪みたいなやつ」

みどり「油が足りないの？」

美奈子「わかんない」

みどり「引っ張っているの？押してみたら？もうちょっと下の方持って。ほら、たるませて押して
みたら？」

美奈子「うるさいなー、もー、やってるよ」

みどり「はいはい」

美奈子「じゃあやるの？」

美奈子は一人でネットを張る。

みどりは倉庫からバレーボールがたくさん入ったキャスター付きのカゴを押してくる。

みどり、ボールを取り出して一人で腕の内側でボールを連続して弾ませ、

みどり「けっこう空気抜けてるわね。先週入れたばかりよ」

ボールの硬さを確かめながらレシーブの練習をし始める。

みどり、井上陽水をまた歌いながら適当に遊んでいる。

だんだんボールの高さが高くなる。

ボールを受け損ねて真横に飛んでネットに当たる。

みどり「あ」

美奈子「まだはれてないんだけど」

みどり「ごめんごめん」

みどり「そんな言い方しなさんな」

みどり「ひろむさんと連絡取ってるの？」

みどり「このあいだ、金曜日、箱入りのマスカット持ってお店に来たわよ。あいかわらずよ。

酔っ払って女の子ひとりじめして」

みどり「真凛と合わせてるの？」

みどり「だから来るのよ。あれほとんどストーカーよ。気をつけなさいよ。」

みどり「もうすごい酔っ払って『ブドウ食べてるところが見たい』とか大きい声で言うんだから」

美奈子、ネットが張れた。

美奈子、倉庫からモップを出しに行く。

美奈子「さっきの人、なんであんなことしたんだろう」

みどり「お金よ。お金が欲しかったんでしょう。借金してると見境がなくなるから」

美奈子「まあ、そうだけど。行政書士の資格持ってて」

みどり「でもみじめよね。あんなかわいい検察官の女の子に『生活保護受けててグランクラス乗れるんですか？』『福島駅で切符換金したらばれないと思ったんじゃないですか』ってね。

キツかったわね、あの子。そこまで言わなくてもいいじゃない、っておもっちゃった」

美奈子「検察官なんだからそれが仕事だよ。傍聴おもしろかった？」

美奈子、モップを2本持ってきて、一本をみどりにわたす。

みどり、モップを受け取り少しかける、がすぐやめる。

みどり「うん。おもしろかった。また行こう」

美奈子「意外だな」

みどり「そう？リアルじゃない」

美奈子「そりゃね、現実だから」

みどり「ねえ、あの風呂敷包はなに？なんであんなのに包んでるのかしら。はやってるの？」

美奈子「検察の人はいつもあれだよ。なんでかは知らない」

みどり「便利なの？支給されるの？」

美奈子「さあ。書類とか包みやすいんじゃない」

みどり「あんたもあれになるの？」
美奈子「あれは検察、こっちは弁護士。それから刑事じゃなくて民事」
みどり「ああそうだった。今日のは刑事裁判。手錠してたもんね」
美奈子「そうそう」
みどり「美奈子は事務所なんかについて企業の相談にのるような弁護士になる」
美奈子「はい、そう」
みどり「あんたほんとに受かるの？」
美奈子「受かりますよ」
みどり「ほーんとにいー？」
美奈子「受かっちゃいますから」
みどり「ならいいけど。受かったらどうするの？いまの会社辞めて弁護士事務所？」
美奈子「すぐには無理でしょ。」
みどり「じゃ、どうするの？」
美奈子「真凜が小学校上がってから、そこから就活ですね」
みどり「あそう。大変ね」
美奈子「まあ、大変だね」

笑う。

稲光がする。

二人とも、動きを止めて窓の外を見る。

みどり「すごいわね。みんな来られるのかしら」
美奈子「大丈夫じゃない？車でしょ」
みどり「最近ね、お砂糖やめてるの。白いやつ。」
美奈子「ああ、毒らしいよね、テレビで見た。外国のドキュメンタリー、ドイツかどっか」
みどり「やっぱり？白米もダメなんだって」
美奈子「え、白米も？じゃあ玄米？」
みどり「うん」
美奈子「やってるの？」
みどり「精米機買った」
美奈子「へー、いい？」
みどり「いい。ぜんぜん違う」
美奈子「えー、ほんとかなあ」
みどり「ほんとよ。ぜんぜん違うわよ。あんたもやりなさいよ」
美奈子「やだよ。めんどくさい」

阪上さんがくる。

阪上さん「こんばんは一、おそくなって、ごめんなさいでしたー」
みどり「こんばんは一、おそいですー、あはは。すごい天気ね。着替えてきたの？」
阪上さん「でも濡れました」
美奈子「阪上さん、これ、こないだの」
美奈子、封筒を阪上さんに渡す。
阪上さん「えー、いいのよいいのよ、いいのよー、あれは」
美奈子「いえ、でも、みなさんに」
阪上さん「いいのよー、困っちゃうじゃない、いまごろ。過ぎたことなんだから」

石井さん、来る。夫の康之も一緒にきた。

美奈子「すみません、みなさん平等にということで」

阪上さん「あ、こんばんは、石井さん。これどうしよう」

みどり「あら、よかった。お二人無事到着」

石井さん「え。なに？」

阪上さん「こないだテルサでお茶した時の」

石井さん「会費から出すことになってんでしょ。もらっときなさいよ、くれるっていうんだから」

阪上さん「そっか」

美奈子「はい」

阪上さん「じゃ、どうもすみません」

石井さん「ミナちゃんもえらいわよ。老人たちはあまり困らせないようにしましょう」

みどり「老人ではありません」

石井さん「お金の計算が一番脳トレになるって言ってたわよ」

みどり「だれが」

石井さん「だれだっけ」

康之「ガッテンだったかな。お金じゃなくてお釣りだよ」

みどり「あらそう」

阪上さん受け取って、バッグから服を出して着替える。

康之、みどりが放置したモップをとって、つづきをやる。

美奈子「(康之に) ここからこっちは終わってます、すみません」

康之「はいはい」

みどり「ねえ見た？錦織の試合」

石井さん「まだ、明日見る」

みどり「結果は知ってるの？」

石井さん「うん」

阪上さん「も一勝つってわかってるんだけど、負けそうな気がして」

みどり「後半がすごかったわね」

阪上さん「うんうん」

石井さん「言わないでよ」

美奈子「ユニクロのヒト？」

阪上さん「そうそう、のどぐろのヒト」

石井さん「あ」

近くに雷が落ちる。皆手を止める。

阪上さん「光った？」

みどり「うん」

石井さん「ミナちゃんテニス見ない？」

美奈子「ええ、最近は」

みどり「あんたもテレビぐらい見なさいよ」

康之がモップの手を止めて美奈子に紙切れを持って近づいてくる。

康之「ミナちゃん、法律の専門分野は著作権だったよね」

石井さん「やめなさいよ、もう専門家なんだから、新聞記事なんてねえ」

康之「新聞は最新情報だよ。専門家だって読むよ」

美奈子「なんですか」

康之「文化庁がASEANと協力して東アジアの著作権の整備を始めたってね、ここ」

美奈子「日経ですか？ありがとうございます」

石井さん「ほら、日経読んでるわよ」

石井さん、その場を離れて体操やランニングを適宜する。

康之「あそうか、ミナちゃんところは日経だったか」

美奈子「いえ、新聞はいまはとっていません」

康之「あ、それは良くないよ、ネット？」

美奈子「ええ」

康之「あのね、新聞で読むのとネットで読むのは記憶の残り方が全然違うんだよ」

阪上さん「そうなの？」

康之「そう。だからね、ミナちゃん新聞にしたほうがいいよ。考えるということにつながるからね。記憶でもって人は考えるから。真凜ちゃんだって、もう読んでもいい頃じゃないかな」

阪上さん「まだ早いわよ、幼稚園じゃ」

康之「始めるのに早いということはないですよ、子供は」

美奈子「考えてみます。ありがとうございます」

康之、スコアボードを準備する。

みどり「私またテニスはじめようかな」

テニスの素振りをする。

石井さん「やってらしたの？」

みどり「ちょっと」

石井さん「あらそう」

みどり「ちょっと、ほんのちょっと、これだけ！」

ちょっとの素振りを強調してする。

石井さん「いつ？」

みどり「高校のころ」

石井さん「へえ、40うん年前」

みどり「お世話様。まだできそうな気がする」

石井さん「できるわよ、テニスぐらい。次からバレーやめてテニスにしようか」

みどり、笑う。

石井さん「それ今日使わない」

康之にスコアボードを下げさせる。

康之、またモップを始める。

阪上さん「今日は少ないでござんすねー」

みどり「こんな日もありますよ。わたしなんか慣れてます」

笑う。

阪上さん「終わったらつるの湯いかない？」

みどり「それいい。やってるの？」

阪上さん「23時まで。あ！」

すぐ近くに雷が落ちる。

全員立ち尽くして同じ方向を見る。

窓際に近寄って外を見ている。

美奈子「斉藤さん遅れるってラインありました」

みどり「あとは」

阪上さん「火曜だから、小山さんだけ？」

石井さん「小山さん、今日花見山公園の日？」

みどり「あ、そうだ」

阪上さん「ボランティア」

みどり「そう。じゃ、遅れるわよ」

石井さん「遅れるわね」

阪上さん「遅れますよ」

石井さん「もうはじめましょうよ。はい、各自準備体操はいいですかー」

みんな「はい」

石井さん「あ、あそこ開いてる、閉めてきて」

康之「はいはい」

康之、反対側の窓を閉めに行く。

石井さん「1対全員のレシーブでいい？」

みんな「はい」

阪上さん「だれがあげるの？」

石井さん「じゃあじゃんけん。最初はグー」

美奈子が勝つ。

美奈子が一人でネットの向こう側からゆるいアタックを入れる。

3人が受ける。

康之はゆっくりと残ったスペースのモップをかけている。

受け損ねたり、うまくいったり、しばらくつづける。

おわり